

# 雨宮処凛 × 鈴木邦男

## 左右を超えて脱原発・反貧困

日時 12月10日(土) 14:00~16:30 (13:30 開場)

会場 コミスタこうべ 2階セミナー室(定員144人)

参加費 1000円



■雨宮処凛(あまみや・かりん)

作家・社会運動家。かつて「ミニスカ右翼」と形容されたパンク・ファッションの元右翼活動家だったが、現在は「ゴスロリ作家」を自称する左派系論者に転向？ 近年はプレカリアート問題に取り組み、代表作は『生きさせろ! 難民化する若者たち』、新著『14歳からの原発問題』(河出書房新社)。反貧困ネットワーク副代表、『週刊金曜日』編集委員、厚生労働省ナショナルミニマム研究会委員。

311 東日本大震災・福島原発事故から9カ月の節目に開催される今企画は、右も左も超えて原発のない社会の可能性を考えるとともに、大震災以後いっそう厳しくなった格差と貧困の拡大という、「ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有すること」(平和的生存権)が侵されている事態を考える対談です。

お申し込みなしでもご参加できますが、人数把握のために事前申し込みいただければ助かります。お問い合わせ先市民社会フォーラム [civilesocietyforum@gmail.com](mailto:civilesocietyforum@gmail.com)

【関連企画】 当日午前、元町映画館で見沢知廉のドキュメンタリー「天皇ごっこ」上映後に、雨宮さんと鈴木さんの同映画トークがあります。タイムテーブル等は元町映画館のサイト(<http://www.motoei.com/>)でご確認ください。



■鈴木邦男(すずき・くにお)

新右翼団体「一水会」最高顧問。プロレス評論家。予備校教師。1943年福島県生まれ。テロを否定して「あくまで言論で闘うべき」と主張。愛国心、表現の自由などについても既存の「右翼」思想の枠にははまらない独自の主張を展開。311以後は、脱原発運動で「右」と「左」の共闘を主張している。TV「たかじんのそこまで言って委員会」に出演。著書『新・言論の覚悟』など多数。

### ■アクセスガイド



- JR三ノ宮・地下鉄三宮 徒歩15分
  - 阪神バス 吾妻通4丁目バス停スグ
  - 阪神電鉄 春日野道駅西口 徒歩3分
  - 阪急電鉄 春日野道駅 徒歩8分
- ※来館者用駐車場はありませんので、近隣の駐車場をご利用ください。